

FACE



検査・診断から薬物治療・ ロボット手術まで チーム全員でより安全に



新しい機器・技術を積極的に導入

手術室等で使用する医療機器の更新を常に心がけています。ここ数年で新規に導入したものは、前立腺肥大症や尿路結石の手術で使用するホルミウムレーザー装置や手術支援ロボット(ダビンチXi)が大きなものです。これらの機器を使用することで泌尿器科の手術内容が大きく変わりました。尿管や膀胱の内視鏡システムも機材のアップデートと新規機種を導入を継続しております。レーザーでの結石手術件数が増えたことで適応となる症例が減った体外衝撃波結石破砕術でも、長期にわたり使用してきた衝撃波装置を令和6年に最新型に更新しました。

また、最新の治療に結びつく診断能力を向上させる必要があり、早期前立腺癌の診断に有用な新規機器を導入しました。外来で実施したMRIから前立腺がんが疑われる部位に対して手術室で針生検を行う際、使用するエコー画像にコンピューターでMRI画像を融合することでより正確な部位の針生検を行うことができるようになりました。

最近の泌尿器科のトレンドとして手術リスクの高い高齢者の前立腺肥大症をより低侵襲に行う手術機器も開発されており、当科でもこれから取り組んでいくことを考えています。



MRI・超音波融合画像前立腺生検システム

最適な治療を提案

泌尿器科は尿をつくる腎臓および排出するための尿路(腎盂・尿管・膀胱・尿道)とその周囲臓器(副腎など)、男性生殖器(前立腺・精巣・男性器)の治療全般を行っています。内科系・外科系という分類では外科系の一分野になり、手術を中心に業務予定を決めています。当科は週3日が手術日ですが、良性疾患の内服治療や抗がん剤治療など手術以外の治療を外来中心に行い、内視鏡をはじめとした検査手技から画像検査オーダー、手術後の経過観察まで一貫して行っています。患者さんの病状を把握して投薬より手術が適切といった判断をスタッフ全員で共有し、様々な患者さんに最適な治療を提供できるよう努力しています。

体の負担が少ない手術

日本で膀胱がんや前立腺肥大症の内視鏡手術は1960年代から導入されていました。80年代以降は内視鏡手術以外にも低侵襲な手技が開発され、体外衝撃波による結石破砕(ESWL)が87年に保険認可されました。90年代に腹腔鏡の手術が行われるようになり、2012年にロボット手術が最初に保険で認められたのが前立腺全摘術です。膀胱鏡検査や内視鏡手術に以前から慣れ親しんでいた泌尿器科医は腹腔鏡やロボット手術などカメラ映像を通した手術への抵抗感が少なかったと思います。現在は当科の手術の9割以上が、内視鏡・腹腔鏡・ロボット・対外衝撃波・レーザーなどを使用した低侵襲手術になっています。

薬物療法からQOLまで

これまで治療が難しかった進行がんにも効果がある薬剤が次々と認可され、多剤併用療法も増えてきました。前立腺がん患者に認められた遺伝子検査は、遺伝子診療センターと連携して運用を開始しました。一方で、がん患者の予後が改善し治療期間も長期となり、副作用対策がより重要になっています。泌尿器がんの治療では新規抗がん剤、分子標的薬、免疫治療薬、多剤併用療法を積極的に導入し、様々な副作用に注意しながらがん患者の生存期間の延長とQOLの向上を目指しています。集学的治療にあたっては放射線治療科や薬剤部と、進行がん患者のQOL向上のためには緩和ケア科と連携し、安心して治療を受けていただけるように努力しています。



進化する手術技術を学び続ける

大学で競技スキー部に入部しました。スキー経験はほとんどなかったので、練習を重ねれば技術の向上を実感できるのが楽しみでした。京都から信州や新潟のスキー場に行くのは大変でしたが、頼りになる先輩や素晴らしい仲間恵まれた部活動でした。

5年生で病院実習が始まるまで、専門にしたい診療科に泌尿器科という選択肢はありませんでした。手術ができる医師になりたい、がんの治療も興味がある、高齢化社会で増加する病気を専門にしたい、という思いがありました。同じ学生マンションの先輩が泌尿器科医になったことや、病院実習での情報が増えてきて有力な選択肢になりました。

泌尿器科1年目のころ、腎臓や膀胱の開腹手術で研修医ができることは限られていましたが、大学の研修後に赴任した病院では前立腺や膀胱、尿管の内視鏡手術を担当できるようになりました。2000年以降は腹腔鏡、レーザー、ロボットという手技が普通になり、30年にわたってこれまで経験のない新しい手技を積み重ねながら仕事ができることを幸せに思っています。

泌尿器科 科長

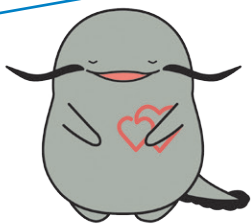
吉田 徹



京都大学博士(医学)
日本泌尿器科学会 専門医・指導医
日本泌尿器科内視鏡・ロボティクス学会
腹腔鏡技術認定医
日本内視鏡外科学会 技術認定医(泌尿器腹腔鏡)
手術支援ロボット da Vinci 認定術者(プロクター)
2017年4月より当院に着任
栃木県二宮町(現真岡市)出身

Information

病院統合のお知らせ



滋賀県立総合病院
イメージキャラクター「びわずん」

令和7年1月1日より、滋賀県立総合病院は滋賀県立小児保健医療センターと統合し、新たな「滋賀県立総合病院」として出発します。これまで小児保健医療センターでおこなってきた医療を引き継ぎつつ、幅広い年齢層の救急患者を受け入れたり、最新のがん治療を取り入れたりするなど、よりいっそう県民のみなさまに頼られる病院を目指してまいります。

ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見やご感想をぜひお寄せください。
お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォームよりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌
「FACE」に関するアンケートフォーム



心のふれあいを大切にして安全で質の高い医療福祉を創生し提供する。

 **滋賀県立総合病院**
Shiga General Hospital

〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号
TEL.077-582-5031(代) / 0570-00-5031(ナビダイヤル)
[診療受付時間] 午前8時30分～午前11時 ※2科受診の患者様を除く
[休診日] 土曜日・日曜日、祝祭日/年末年始(12/29～1/3)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/index.html>

滋賀県立総合病院



病院HP



FACE

滋賀県立総合病院広報誌

発行：滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)
発行日：2024年12月

バックナンバーも
ご覧いただけます

